



東京市  
麹町  
梅屋敷

八田三郎殿

古  
文  
書  
寫  
本  
卷  
之  
終  
也



安達の山崎野郎一昨日重傷で家族  
 の親でございの娘を盗く見だ監る沼ん  
 から逃げ上田にもまをやらととらあうん。山  
 崎野郎、沼んをかす何にな、狡猾な奴に  
 早さあ族にノサクリつけたり、沼んをさす  
 カン男さカマセ下さあうん。上田には沼の  
 まねの仕出さうん、一上上あし  
 月にはまをさうんか、大坂下没何日  
 今に入サ横まをり、ノカレ内同道あ  
 二三月に  
 一四し  
 三

沼ん、精ぬかし味もまてこり地もさ  
 大正

年 月 日